

# 令和7年度第1回香川県水産審議会 議事録

- 1 日 時 令和7年7月25日(金) 10:00~11:30
- 2 場 所 アイパル香川 3階 大会議室(第5・6会議室)
- 3 出席者 嶋野(勝)委員、嶋野(文)委員、石原委員、平瀬委員、山口委員  
原委員、山本(啓)委員、宮本委員、常川委員  
(欠席委員:佐伯委員、中村委員、山本(浩)委員、川田委員、勝田委員、安岐委員)  
委員15名中9名が出席しており、香川県水産審議会条例第7条第2項の規定により、本審議会は成立。
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 題

## (1) 会長及び副会長の選任について

事務局より、議事進行上、桑原農政水産部長を仮議長とする提案があり、了承された。

仮議長より、条例第6条第1項に基づき、会長及び副会長は委員の互選によることを発言したところ、委員から、会長は嶋野(勝)委員を、副会長は原委員を推す意見があり、全委員の賛成で了承された。

以降の議事については、条例第7条第3項の規定により、会長である嶋野(勝)委員が議長となって進行。

## (2) 香川県水産審議会の部会について

事務局より、「漁港・漁場整備部会」について、「漁港・漁場部会」への名称変更と所掌事務を見直す旨を説明した。

その後、議長より、条例第8条第2項の規定により部会に属する委員及び専門委員は会長が指名することとなっているが、まずは事務局から候補者を提案してもらい、他の委員の意見を伺ったうえで指名をしたいとの発言があった。事務局が提案した候補者について、委員からは特段の意見等は出ず、事務局案のとおり部会に属する委員及び専門委員が会長によって指名された。

続いて、議長より、条例第8条第3項の規定により部会長は部会に属する委員のうちから会長が指名することとなっているが、同様に事務局から候補者を提案してもらいたいとの発言があった。事務局より、栽培・養殖・流通部会は嶋野(文)委員、漁港・漁場部会は山口委員、担い手対策部会は平瀬委員をそれぞれ部会長とする提案があり、委員からは特段の意見等は出ず、事務局案のとおり3名の部会長が会長によって指名された。

委員: 専門委員のメンバーや所掌の見直しについて異論はないが、「漁港・漁場部会」という名称は抽象的なので、名称そのままにして所掌だけを変更してはどうか。

事務局: 漁港・漁場の整備だけでなく、環境保全の取り組みもこの部会に含めたいという考えで今回の案を提示した。

委員: 「漁港・漁場環境創出」にするのはどうか。

事務局: 名称についてはいただいた意見を踏まえて事務局で検討したい。

事務局: 「整備」だけでは読み切れない環境保全という意味を含め、できるだけ広い意味で捉えるために「整備」を消したが、委員のおっしゃるとおり、何をする部会なの

か明確ではないので、「漁港・漁場整備・保全部会」という名称にするのでよろしいか。

委員：「整備」の中に「環境保全」も含まれていると思う。付け加えるのであれば、取り除いた方が良くと思う。名称の変更に強くこだわっているわけではない。

事務局：あえて入れるとしたら「漁港・漁場整備・保全部会」だと思って提案したが、所掌を広くとらえて「漁港・漁場部会」とするか、どちらかだと考えている。よろしければ原案のままに進めさせていただきたい。

委員：承知した。

### (3) 香川県水産基本計画の進捗状況について

事務局より、資料に基づき香川県水産基本計画の進捗状況について説明。

委員：クロノリ 1 柵当たりの生産枚数が増えた理由を教えてください。

事務局：R6 年度はクロノリの単価が高く、養殖業者が養殖生産時期の最後まで精力的に生産したことが要因だと考えられる。品質的にも極端な色落ちもほとんどなく、また、ノリの場合は 1 枚当たりのコストも計算できるため、それを超える入札が期待できる状況であった。

委員：冒頭に事務局がおっしゃったように、次の 5 年が非常に重要になる。970 経営体になり、次の 5 年も同様に下がったら本当に死活問題になる。これは質問というより要望だが、キジハタの種苗生産が好調ならそれを見越してキジハタのブランド化を進めたらどうか。今回の基本計画に含めなくても、次の基本計画に向けて少し踏み込んだ取組みをしていかないと、このまま漁師の減少が続くと、香川県の水産業がなくなってしまう。イイダコについてもマダコについても自分達で生産できるならブランディングして付加価値を付けて売っていく等、そういうところまで見越してやっていくという姿勢を、次の基本計画でも良いので見せて欲しい。

事務局：次の計画に組み込めるよう整理をしていきたい。

委員：海ごみの回収事業を実施する 8 組織の内訳は、漁師や漁協がメインなのか NPO 法人などの組織が含まれているのか。

事務局：漁協を中心として取り組まれている活動組織であり、NPO 法人などは含まれていない。

### (4) 専門部会の開催状況について

イ) 事務局より、栽培・養殖・流通部会の開催状況について報告。

「令和 6 年度種苗生産結果及び令和 7 年度種苗生産等計画（案）」、「令和 7 年度魚類養殖にかかる対応策（案）」、「令和 6 年度藻類養殖事業結果及び令和 7 年度藻類養殖事業計画（案）」について、原案のとおり承認された。

香川県水産基本計画の進行管理について、令和 6 年度の取組みと成果、次年度以降の取組みと課題について報告した。

ロ) 事務局より、漁港・漁場整備部会の開催状況について報告。

香川県水産基本計画の進行管理について、令和 6 年度の取組みと成果について事務局から報告。漁港漁場整備関係事業の令和 6 年度実績及び令和 7 年度計画について事務局から説明した。

ハ) 事務局より担い手対策部会の開催状況について報告。

「令和 6 年度漁業の担い手確保・育成関係事業の実施結果」、「香川県水産基本計画の進行管理」、「漁業担い手育成指針の進行管理」について事務局から報告した。

「令和 7 年度漁業担い手確保・育成関係事業の実施計画」について原案のとおり承認された。

「香川県漁業士の認定」について、指導漁業士候補者 6 名の適格性を審査し、全員適当であると決定した。

(5) 次期香川県水産業基本計画（骨子案）について

事務局より、資料に基づき次期香川県水産業基本計画（骨子案）について説明。

委員：県産水産物は目に見えて減少しているが魚価は上がらない。本来は漁獲量が減れば単価が上がらなければいけない。消費の現場と生産の現場両方に問題が山積している。漁船漁業の漁師からは、「魚が獲れない、安い」と言われている。水産物の消費量も肉と比べて減っている。食べてもらえないものを獲っても意味がないので、生産現場と消費現場の両面から対策していく必要がある。

漁場の創出について、川から流す水を管理する（栄養塩管理計画による栄養塩類増加措置）の結果や効果について、まだ始まったばかりなのでわからないとは思いますが、現時点で答えられる範囲で教えて欲しい。昨年ノリの生産が良かったのは、このような取組みの影響なのかとも思っている。

事務局：栄養塩管理計画についてモニタリング調査を行っている。排出している水の量もあって1年だけで明確な評価は難しい。ノリの生産量については複合的な要因で昨年度は良かったと考えられる。栄養塩による効果は1年だけでなく長い目で見ていきたい。

委員：「地球温暖化」という表現で記述されている箇所がある。最近の環境の分野では少し広い考え方で「気候変動」という表現を使うので、そういった表現を文中に入ると良いのではないか。

事務局：検討する。

委員：基本計画を作成するとき、生産が順調なときは課題が明確で基本計画も上手くいきやすい。生産が激減しているときの基本計画は、現状がそうだから仕方がないのだが、激減をどう食い止めるかという計画になってしまう。香川大学も、子供の数が減って大学の存続について問題になっている。香川大学では、地域未来研究会を作って基本計画を作成しているが、そこでは発想を変えて100年後に香川大学がどうなっていたいかを話し合っている。その方が明るい話ができる。漁業者や水産課だけでなく、里海大学等漁業に興味を持っている人たちを巻き込んで、100年後の瀬戸内海がどうなっていたいか、100年後に漁師がいて豊かな瀬戸内海があるためにはどうしたら良いかを話し合う場を設けてみてはどうか。

地域活性化の分野では関係人口という、観光客より地域と関係があるが移住するほどではない人口を重要視している。水産業だけにこだわらず、香川の家や瀬戸内海の関係人口を増やして応援団のようなものを作っていくと良いと思う。里海大学など香川県は全国でも有数の海ごみ対策を行っている県であり、私の元に話を聞きに来る人もいた。そういった人達を巻き込んで、こうありたい海、理想とする海をみんなで共有していくことが必要だと思う。

事務局：100年後という意識はなかった。水産業が衰退傾向にある中で向こう5年間で重要という認識は持っていたが、確かに100年先このままだと本当に大丈夫か想像もつかない。将来そのまま下降曲線を見てげんがりするより、少し目線を上げて将来を見据えながら、少し肩の力を抜いてみてはというご提案だと思う。水産業が厳しいという漁業者からの意見はよく聞くが、漁業者以外で海に携わる方がどういった認識で、さらに具体的に何か取り組みたいという方がいらっしゃるのであれば、そういった方と一緒に考えていきたい。

以上